

# 第69期 中間株主通信

2022年4月1日 ▶ 2022年9月30日

## 株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。  
ここに、当社第69期中間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の事業の概況をご報告申しあげます。

2022年12月

代表取締役社長 上田 正博

## サトー 佐藤食品工業株式会社

証券コード：2814

### 業績ハイライト

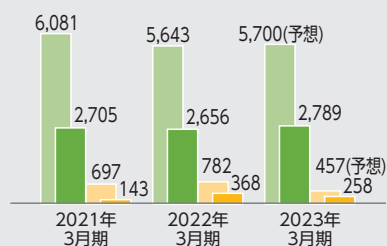
当社WEBサイトでは、決算短信や有価証券報告書など、詳細な財務情報を提供しております。

佐藤食品 IR

検索

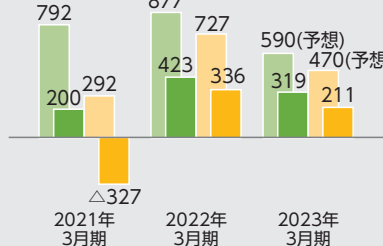
#### 売上高／営業利益 (単位：百万円)

売上高 (■ 通期 ■ 第2四半期)  
営業利益 (□ 通期 □ 第2四半期)



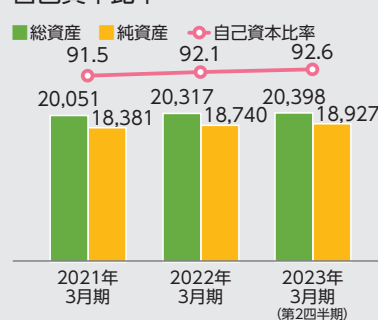
#### 経常利益／四半期(当期)純利益 (単位：百万円)

経常利益 (■ 通期 ■ 第2四半期)  
四半期(当期)純利益 (□ 通期 □ 第2四半期)



#### 総資産／純資産 (単位：百万円)

自己資本比率 (単位：%)



### 役員一覧 (2022年9月30日現在)

代表取締役社長	上田 正博
取締役	鈴木 宗行
取締役	大津 新司
取締役相談役	清水 邦雄
取締役相談役	長谷川 憲治
取締役(社外)	秦 博文
取締役(社外)	光田 博充
監査役	垣見 泰年
監査役(社外)	串田 正克
監査役(社外)	稲石 純二

### 会社概要 (2022年9月30日現在)

本社	愛知県小牧市堀の内四丁目154番地
設立	1954年10月
資本金	36億7,227万5千円
従業員	174名
工場	本社工場 愛知県小牧市 第二工場 愛知県小牧市 第三工場 愛知県春日井市

### 株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行可能株式の総数	27,000,000株
発行済株式の総数	9,326,460株 (自己株式5,111,400株を除く)
株主数	1,076名

### 株主優待制度のご案内

対象	毎年3月31日現在の株主名簿に記載された500株以上の株式を保有される株主様
優待内容	500株～999株 1,000円相当の当社製品 (茶エキス粉末)
	1,000株以上 3,000円相当の当社製品 (茶エキス粉末)

発送時期 毎年6月を予定しております

### 佐藤食品の茶エキス粉末

当社の茶エキス粉末は、水に溶かすだけで、誰でも簡単に本格的なお茶をつくることができます。冷水にもお湯にもサッと溶けるので、大変便利です。おいしさはもちろん、持ち運びも簡単で茶殻が出ない等、様々な特徴を有しております。是非この機会にご賞味ください。

[写真は 3,000円相当の当社製品 (茶エキス粉末)]



### 単元未満株式の買増・買取制度について

口座のある証券会社へお申し出ください。特別口座を開設されている株主様は、口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社 (TEL 0120-782-031) までお申し出ください。

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しております。(※2021年3月期以前の数値は適用していません。)



# サトーは、独自の「粉末化」技術で 天然食品の可能性を追求し、グローバルワンを目指します

## 製品分野のご紹介



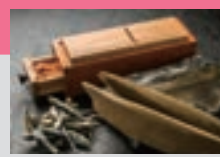
### 茶エキス ● 売上高：1,128百万円

緑茶、ほうじ茶、紅茶、烏龍茶、麦茶、玄米茶、抹茶、ジャスミン茶、ルイボス茶等

お茶本来の風味を余す所なく粉末化

用途

インスタント茶、給茶機・カップ式自動販売機、製菓、健康食品など



### 天然調味料 ● 売上高：1,234百万円

鯉節エキス、昆布エキス、椎茸エキス、酢、魚介エキス（鮭、エビ、真鯛）等

※粉末調味料と液体調味料を合算して表示しております。

天然素材の豊かな味と香りを閉じ込めました

用途

つゆ、たれ、スープ、ドレッシング、製菓、プレミックスなど



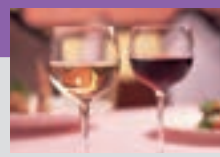
### 植物エキス ● 売上高：368百万円

イチゴ、レモン、巨峰、りんご、バナナ、オレンジ、ブルーベリー、栗、ゆず、ネギ等

果実や野菜のフレッシュな風味をそのまま粉末化

用途

製菓、健康食品、粉末飲料など



### 粉末酒 ● 売上高：54百万円

赤ワイン、白ワイン、清酒、ブランデー、ラム、みりん等

世界主要17カ国で製法特許を取得！当社の名を世界に広めたオンリーワン技術です

用途

製菓、プレミックス、スープなど

## 当第2四半期の概況

当第2四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、「本感染症」といいます）の新たな変異株の流行により新規感染者数が急増したものの、これまでのような行動制限策が講じられなかったことから、緩やかに社会経済活動の正常化が進み、個人消費にも持ち直しの動きが見られました。一方で、本感染症の最終的な収束の見通しが困難であることや、急速に進行した円安、ロシア・ウクライナ情勢の長期化による物価上昇などから、依然として先行き不透明な状況が続くものと予想されます。海外経済につきましては、一部の国では本感染症の規制を撤廃する動きが見られるなど、社会経済活動の正常化が進むものの、新たな変異株への懸念や、金融資本市場の変動による景気の下振れリスク、長期化するロシア・ウクライナ情勢など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社といたしましては、顧客、取引先及び従業員の安全確保を最優先に、一時的な操業停止など本感染症の感染拡大に伴うリスクを避けるため、マスク着用や手洗い消毒などの、基本的な感染拡大防止対策を講じつつ、国内の感染状況に応じて営業活動や来客対応の制限などの対策を行うとともに、変化、多様化する消費者ニーズやエネルギーコスト及び原材料コストの動向に注視しながら事業活動を継続してまいりました。

このような状況のもと、当社の当第2四半期累計期間における売上実績は、前年同四半期累計期間から茶エキスを中心に緩やかな回復基調で推移しました。

茶エキスにつきましては、行動制限緩和によるオフィス需要の持ち直しにより、玄米茶エキス・ウーロン茶エキス等が減少したものの、ほうじ茶エキス・緑茶エキス等が増加したため、売上高は1,128百万円（対前年同四半期比8.9%増）となりました。

粉末天然調味料につきましては、家庭内調理需要の継続と外食需要増加の鈍化により、粉末ソース等が減少したものの、粉末鯉節・粉末魚介等が増加したため、売上高は890百万円（同0.3%増）となりました。

植物エキスにつきましては、果実エキスの製菓用途と飲料用途の需要増加により、果実エキス等が増加したため、売上高は368百万円（同9.6%増）となりました。

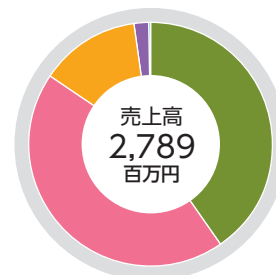
液体天然調味料につきましては、家庭内調理需要の継続と外食需要増加の鈍化により、鯉節エキス等が減少したものの、椎茸エキスが増加したため、売上高は343百万円（同0.3%増）となりました。

粉末酒につきましては、製菓用途需要の回復により、ラムタイプ等が減少したものの、ワインタイプ等が増加したため、売上高は54百万円（同8.3%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,789百万円（同5.0%増）となり、前年同四半期に比べ132百万円増加しました。

利益面につきましては、売上原価の増加により営業利益は258百万円（同29.9%減）、経常利益は319百万円（同24.5%減）となりました。また、法人税等59百万円（同33.5%減）を計上したため、四半期純利益は211百万円（同37.0%減）となりました。

## 売上高構成比



■ 茶エキス	40.5%	1,128百万円
■ 天然調味料	44.2%	1,234百万円
■ 植物エキス	13.2%	368百万円
■ 粉末酒	2.0%	54百万円
■ その他	0.1%	2百万円

## 中長期の取り組み

特に下記の3点を重点課題として取り組んでおります。

### ① 安全・安心な製品の提供

品質保証プロセスにおけるITシステムを活用した業務改善。

### ② 生産性の向上及び合理化

原材料コスト変動リスク等に対処した、利益を生み出しやすい生産体制づくり。

### ③ 高付加価値製品の開発

製販一体となって、顧客ニーズの開拓、それにすばやく応えることができる体制づくり。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。